

## 自然薯、今年も元気に成育中



元気に育っている自然薯

昨年はツル、葉の成長もよく、中には失敗作もあるものの、立派なイモが収穫できました。今年も同じ畑で種芋約250本を植付け。昨年は省力化(楽)をしようと畝をあまり高くしなかったせいか、一部に水はけの悪い所がありました。その反省から今年は畝を高くして(畝立て作業が大変で



腰にきました)水はけを改善しました。秀品率アップに期待です。また、マルチ張りが遅れ、畝に草がぼうぼうに生えてしまい、ぶどうの忙しい時期に草取りに時間を取られて大変焦ったので、今年は早めの5月下旬に電気柵内側の圃場内全面に白黒マルチを張り終えました。おかげで草取りの手間が大きく省けました。夏には、旺盛にツル、葉が茂るようになり花もたくさん咲いています。

6月には今まで活動していた新山自然薯生産組合が、生産農家だけでなく、加工、流通も含めて活動していこうということで新しく組織を立ち上げ、メンバーも町内全体に広がっていることから「吉備高原自然薯研究会」という名称で新しくスタートすることになりました。



収穫した自然薯と自家製コンテナ

ぶどう園には毎年たくさんのお客様々が姿を見せます。一部紹介しますと、いのしし、犬、たぬき、猫、野うさぎ、へび、カラス、雀、かぶと虫、こねぼ、せみ、カメムシ、カエル、ハエ、蚊、づヨなどです。

いのししは早朝にきて、鼻で畑の土を掘り返してミミズを探し、地団駄を踏んで帰るようです。なかなか抜けない頑固な草も、根っこからひっくり返しているのでもその鼻力には脱帽します。ただし凸凹になった土で足をとられることもあるので要注意。犬が迷いこんできた時は「だるまさねが転ん

だろっこ」をしました。私が動くちょっと間隔を置いて犬も動く。私が止まると犬も止まるの繰り返し。ビオネの房を見ながら、目の端で犬の姿を追っていました。なかなか勝負がつかないので、近づくとさーっと逃げていきました。恥かしがいいですね。



収穫の頃には、たぬきがビオネの木に登って房を食べているようです。鳥達も甘い香りに誘われて、空から房をつつきにやってきました。防鳥ネットを張っていても、小型の鳥は入場。一粒二粒突いては違う房を狙うので「同じのにしてくれ」と頼みたい心境です。

一番困るのは蚊やづヨなどの吸血虫軍団。一生懸命、汗を流せば流すほど、近づいてきて吸血させられてしまいます。あとに強烈なかゆみやはれを残して。自然との共生は、楽しくもあり、難しくもありということでしょうか。(kivoko)

このたびの東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞申し上げます。



円城の雪景色



満開の桃の花



剪定後のぶどう園

